



No.1 2011.5

UN Women

よこはま

目次

UN Women よこはま総会	1
UN Women ニュース	1
国際女性デー	2~3
基調講演・シンポジウム	2
交流会	3
オーストラリア女性デー	4
船野美紗子さん講演会	4
パキスタン便り	5
マレーシア便り	5
会員のページ・ショップ	6
国内委員会ニュース他	6

UN Women よこはま初総会（2011年度）開催

2011年2月6日（日）、UN Women日本国内委員会という名称での初総会が男女共同参画センター横浜で開催されました。総会冒頭、西村洋子会長は、UN Womenの理念がユニフェムの理念を内包していることや、「女性の力、女性の勤勉さ、女性の知恵は人類がこれまで最も利用していない資源である」というミシェル・バチエレ事務局長の言葉を引用し、NGOの役割の推進を強調して挨拶を締めくくりました。総会では名称変更や活動の継続発展に向けて事業報告・会計報告が綿密に行われるとともに、2011年度の事業計画や予算について理念の実現に向けた提案がされ、満場一致で可決されました。次に、UN Women日本国内委員会の高橋克子さんから以下の報告があり、今後の推進に向けた理念と活動について共通理解が達成されました。UN Womenは4団体の統合による組織です。ユニフェム委員会の活動の9割以上と同等であることは、事務局長のHPの演説からも判ります。活動対象は全世界となり、執行理事会が運営し、日本も立候補してメンバーに選出されました。担当は外務省で、国連担当大使が兼務の予定です。日本はすでに450万ドルの寄付を行い、強力な支援国です。6月には100日同行動計画が発表されます。ロゴマークの決定や事務手続きを経て、理念の実現に向けて本格的に活動開始となります。



(広報部会 桑原正子)

東日本大震災で被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。
1日も早く復興し、平穏な生活が戻ってることをお祈りいたします。



UN Women ニュース

日本もメンバーになっているUN Women執行理事会の第1回会合が1月24日に開催され、ミシェル・バチエレ事務局長がスピーチをしました。まず「最初の100日同行動計画」の立案を発表し、次のような5領域を優先テーマとすると述べました
 ①女性の発言権、リーダーシップ、参画を高めていく
 ②女性に対する暴力を根絶する
 ③紛争解決と和平構築への女性の参画を強化する
 ④女性の経済的エンパワーメントを促進する
 ⑤ジェンダー平等を国家、地方計画・財政の中心におく、などです。このようにテーマを特化することで目に見える成果をあげることを目指します。

2月22日には国連女性の地位委員会の第55回会合が開かれ、バチエレ氏は今年のテーマに「女性・女児の教育および雇用」を選んだと述べました。「先生の教育・カリキュラムの改定などで教育の質を高めていくことが必要だが、それだけでは十分でない。教育をうまく雇用に結びつけていくことが大切だ」と述べています。2月24日に行われたUN Womenの開所式はお祭りのような雰囲気が感じられました。バチエレ氏が赤いドレス姿で、満面の笑みをたたえて登場すると会場が沸きかえりました。バチエレ氏はそのときのスピーチで「人口の

半分を占める女性という資源が十分活用されていない状況を放置できない。私の経験から女性にできることにリミットはない」と述べ、会場から大きな拍手を浴びていました。

今年の女性デーではバチエレ事務局長は100年前の女性デーに思いをはせ次のように述べました。「当時女性に選挙権を認めていたのは世界でわずか2カ国でしたが今では世界中で認められ、女性が国のリーダーに選ばれることは珍しくありません。つい最近までドメスティック・バイオレンスは個人の問題とみなされていましたが、今では3分の2の国で処罰する法律があり、国連安全保障理事会も性暴力を戦争の戦術とみなしています。このような進展にもかかわらず、100年前に叫ばれた平等の実現にはまだ遠い道のりがあります。議会で女性のしめる割合は19%、和平交渉への参加は8%、女性の国家元首や政府首脳は28人に過ぎません」

事務局長は今まで男女同権を達成するために戦ってきたことにも触れました。母親として、小児科医として仕事と家庭の両立に苦労し、保育所の不足で女性がいかに職場から締め出されてきたかを目の当たりにしてきましたと述べています。またその経験から女性は過酷な状況にあっても社会や家族のために目標を達成できると世界中の女性達に大きなエールを送りました。

(広報部会 本田敏江)

国際女性デー 2011 ~つながる輪 ひろがる和~

※3月6日 於アートフォーラムあざみ野 レチャールーム※



◆当日は穏やかな天気に恵まれて客足が伸び、子ども連れも多く会場はほぼ満員となった。女性4人のグループ・アマリリスのフルート演奏がオープニングを飾り、春の気配が漂う中、若い世代への応援歌が始まった。

第1部

基調講演「イクメン(育児する男)が社会を変える」

講師 東 浩司 (NPO 法人ファザーリング ジャパン理事)

本業は「パパ」。計6回の異業種転職を経て娘の誕生を機に独立。従来の仕事一辺倒ではなく、ママと共に子育てをし、仕事と育児と人生を楽しむパパを目指してイクメン真っ只中。ワークライフバランスやパパ育児をテーマにセミナー講師も勤める。

まずは会場参加型「脳体操」。お隣と嬉しかったこと、楽しかったことを語り合う3分間。場内はにわかに笑顔あふれる和やかムードになっていった。いい父親でなく、笑っている父親になろう。悪口は言わないプラス思考体質になろう。夫婦のパートナーシップを大切に。イクメンは仕事も家事もできるし、プライベートも充実。イクメンが増えれば社会が変わり、今が変わる。パワーポイントを使用しての統計表も分かりやすく、イクメンの筋め全開。

●イクメンになって分かった『育児を楽しむための5つのキーワード』

1 「パパスイッチ」を入れる	妻の出産に立会い、産後のケアをして、体を動かし、心で感じながらパパになる。
2 「パパの出番」を作る	パパの育児は得意技から。パパ料理、お出かけ、キンシップはたっぷりして、子育て時間を楽しもう。イクメンはスタートが肝心。ママもほめ上手に。
3 子育ては「期間限定」	育児を楽しめるのは、ほんの数年。困難なプロジェクトを夫婦で乗り切ろう。小学生になれば親よりも友達が良くなってくる。
4 「パパ友ネットワーク」を作ろう	育児を楽しく継続させるカギはパパ友。子育てからの開放もパパの役目。
5 「ワーク “ワイフ(妻)” バランス」	大切なのはママへのサポート。夢と感謝をもって夫婦で語り合おう。いつも感謝を忘れずに「ありがとう」の言葉を添えて。

子供たちに、大人の輝いている姿を見せよう。親自身の生き方、人としてのあり方を。周りが暗いと嘆くのではなく、自分が太陽になればそれでいい。

子育て世代への応援歌。時折、子どもたちの声も聞こえてくる和やかさ、楽しくも心に残る講演となつた。

(事業部会 後藤久美子)

第2部

シンポジウム「自分らしく輝こう：子育て世代への応援歌」

東さんのユーモアたっぷりの基調講演の後、日頃から子育て支援に携わっている3人が加わって、シンポジウムが行われた。始めに司会進行の男女共同参画センター横浜北事業課長の常光明子さんから、テーマの「つながる・ひろがる」に焦点をあて、実のあるものにしていきたいとの発言があり、それぞれの活動紹介に入った。

■育児休暇の中で 【倉田真希 横浜市子ども青少年局担当係長】

現在5か月の坊やを育てながら仕事を振り返り、全国に先駆けて父親学級「横浜育メンスクール」やWebサイト「ヨコハマダディ」などを企画し、夫に育休を取らせ、6週間の休業中は、授乳以外は全て協力しない、かけがえのない時間を共有したこと。昔は自然にあった地域の人間関係を、今は行政が意識的に作っていく必要があり、自分も夫が仕事に復帰した後は、地域に出ていく支えられたと話された。



■チームWITHの活動は【木下直子 チームWITH代表】

2006年最初の子育てフェスタの映像が流された。上の子が3歳の時に10人のママ仲間と始めたもので、子どもがいてできることをしようと発想の転換をした。スポーツ・健康づくり・子育ての3つを柱にしていること。

■地域での子育て拠点になって【原 美紀 港北区地域子育て支援拠点どろっぷ施設長】

原さんは10年前から港北区で毎日のんびり過ごせる場がほしいと、仲間と「びーのびーの」というグループを始め、6年前からは市の子育て支援事業で「どろっぷ」という施設になった。学生ボランティアや地域の人など多様な世代が関わっていて、多くの人のサポートを得て自分らしく生きられるとのこと。これに東さんも、育児に正解はないことは多くの人と関わることで分かってくると同調された。



熱く語るシンポジストの皆さん

■■つながる・ひろがるために

原さんより、学生へのアンケートでは育児へのイメージが暗く、当事者にはがんばっている故のしんどさ・負担感が強くあるとのこと。ボランティアにはその人自身の居場所になるよう働きかけていく。倉田さんは、つながる相手はまず夫で同志であると発言。ここで会場から夫君が「初めに子育てを共有できて良かったが、育休を取りるのはプロポーズするより100倍大変だった」と笑いを誘った。同時に男性が育児のために休むことの壁の厚さを感じさせられた。

木下さんは地域の大学で場所を借り、母親の健康づくりを支援しているが、わが子だけでなく地域で子育てにチャレンジし、子育てを卒業した人が次に担い手になっていくとのこと。

■■■まとめとして

育メンはブームで終わらず、それが当たり前の文化を作っていくみたい。他者との関わりの中で自分らしくあることができるので、夫の理解を得にくい中で一過性ではなく努力したい。女性が変わるために楽しい作戦をしあげたい。シニア世代には自分の孫のみでなく地域の子育てに関わってほしい。

会場のシニア世代には子育ての現状はどうに響いたのだろうか。育じい、育ばあの声も一言ほしかったが、子どもを安心して育てられる環境作りには協力を惜しまない所である。今回はバギーのまま入れるようにしたので、若い人たちの笑顔が嬉しかった。

(広報部 菊藤栄津子)

第3部

交流会、グッズ販売（11団体自慢の手作りグッズ）

*I'm home *WE21ジャパン *AWCアジアの女性と子どもネットワーク *FRN
ファイバーリサイクルネットワーク *KUU(くう) *SuiSui(すいすい)
*W.Cakeダブルケーキ *フラワーアレンジメントプリムラ *mikurieミクリエ
*ユニフェムよこはま *夢色ガラス (参加1団体:50音順)

今年の女性デーは、赤ちゃんを抱っこしたり、おんぶしたりのお父さん達、バギーの中で眠る子、よちよち歩く子、甲高い泣声に気遣うお母さん、それに年配のご夫婦など3世代が一堂に会した集いであった。いずれも共に育ち合い、支え合っての地域づくりを目指す若い世代の意気込みが伝わってきた。



育休中のシンポジストの夫も赤ちゃんを抱っこして参加し、職場の近況や心情が吐露されて、会場は「イクメン」の面目躍如と盛り上った。育児休暇をとれば男も賃金カットされる日本の現状に、子育て世代の苦悩が垣間見られ、先進国日本の懐の浅さを痛感させられた。



親子で楽しい交流

会場では、資生堂からのボランティア3名も活躍し、地元の11団体の手作りグッズの販売コーナーも設けられた。手作りパンやリサイクルの小物などの販売で、子どもを交えた楽しい交流があった。

舞台上には会員たちの持ち寄ったミモザとさくらが活けられ、4回目の女性デーを華やげに咲き競っていた。来年の企画がまた楽しみである。

(総務部会 伊藤千鶴子)

今年の国際女性デーは、準備段階の当初から例年とは異なる盛り上がりを見せた。今までより多くの個人、そして企業が国際女性デーの催しへの参加を申し出た。首都、地方都市さらに遠い地域で、個人、NGO、民間企業、地方自治体がUN Womenの募金活動のために350の行事を開催した。UN Women オーストラリア国内委員会は各州で1イベントを開催し、昨年の倍の33,000人を集めた。

今年は次の3人の素晴らしい講師を迎えた。ボツワナ最高裁判所の女性初の裁判官ユニティ・ダウ氏、アメリカ平和問題研究所イラク部長マナル・オマール氏、エイズ問題に取り組むザンビアのカヌス・ズル王女である。今年の焦点は、女性がリーダーシップをとることと、政治参加である。女性が舵を取れば何を達成できるか例示し、病気、貧困、女性の権利、争いなどの重荷を軽くするために奮起するよう促した。今年は幸いにもプライスウォーターハウス、エイボンなどの代表的な企業がスポンサーを引き受け、その経営陣が女性のリーダーシップ、およびジェンダー平等に理解、支持を表明した。オーストラリア国内委員会は政府の支援で国際女性デー100周年記念のDVDを作成した。www.unwomen.org.auにアクセスしてほしい。

国際女性デーの開会祝賀朝食会を国際議事堂で開催し、UN Womenの国際的な活動に多くの議員を引き込むことができた。またすべての中学校に2,500の教材を送った結果、多くの学校が祝賀期間中にジェンダー平等についての討論をカリキュラムに取り入れた。女性に対する暴力根絶運動のシンボルである紫色のリボンステッカーとペンも30,000個売れた。

今年の祝賀行事の報道は我々の期待以上だった。国内委員会会長のジュリー・マッケイと講演者のインタビューが数回にわたりゴールデンアワーにテレビで放映され、ラジオ、新聞でも報道された。これにより今年の焦点である女性のエンパワーメントを効果的に提唱できた。全体的に見て2011年の国際女性デーは驚くべき成功を収めることができた。



国際女性デーのカップケーキ

(翻訳 広報部会 三澤美恵子)

紺野美沙子さん講演会

～輝ける女性と子どもの笑顔のために～

俳優・国連開発計画(UNDP) 親善大使 紺野美沙子

3月8日の国際女性デーにちなんだ催しとして戸塚の男女共同参画センター横浜のホールで開かれました。主催は横浜市市民局男女共同参画推進課、共催は同センター。紺野さんはNHKの連続テレビ小説のヒロインや数多くのドラマや舞台でも活躍中。98年にUNDP親善大使になられ、13年になります。

来る途中、電車で1歳くらいの子どもが母親と一緒に過ごすのを見て幸せとは何だろうと考えました。それは安心して安らいでいる時間ではないでしょうか。

親善大使として172ヶ所、9つの国と地域に行ったけれど紛争や貧困から立ち上がって幸せを作ろうとするのは女性たちです。そして戦争などの被害を最初に受けるのも女性、高齢者、子どもです。

親善大使にはサッカー選手や色々な職業の人があります。私にできることは何なのか考えました。この仕事は子育てに似ています。厳しい現状を若い人に伝えていくことかと思います。1年に1度途上国のプロジェクトをみて広報宣伝係をすることにしました。

カンボジアでは小学校の設備が貧弱で、子どもは労働力です。12歳の女の子が言いました。「学校に行きたい。一番うれしかったことは聞かれてても何もない。悲しかったことは母親が亡くなったこと」と。日本の草の根無償援助で井戸掘りが行なわれていました。どこでも女性は働き者、男のほうはそうでもありません。

ガーナは2008年に共和国になりました。忘れられない女性がいます。アクラです。HIV孤児が増えている地域において6人の子の里親になり育てています。

私のすることは自分の目の前に支援を求めている人がいる、自分にできることは何か、一人でも多くの人に考え方実行するよう伝えることです。本を書き(「ラララ親善大使」小学館刊)その印税をすべてUNDPに寄付しています。

2010年夏、寄付先のパキスタンに行きました。女性の問題、子どもの問題に同心をもつと見えてくるものがあります。どこの国でも子どもは可愛い、でも取り巻く環境は違います。子どもは生まれるところを選びません。格差をなくすため何ができるか答はありません。しかし同心をもつことが第一です。自分以外の第3者を思いやる気持ちをもつこと、自分の大切な時間の一部を活動に使うこと、これが当たり前になれば大きな力になります。仲間を増やすことも大事です。

お母さんは太陽だといわれます。ニコニコしていると周りが明るくなりその積み重なりが大きな幸せになります。できることを見知らぬ誰かのために使いましょう。好きなことをして。私は朗読会を広げようとしています。子どもに自分の背中を見せてください。

(まとめ 総務部会 宮坂洋子)

パキスタン便り

治安の悪さの中で

高垣 絵里

高垣絵里さんのプロフィール：アメリカの大手IT企業に勤務する事10年。世界約70カ国（内最貧困40カ国）を対象に、各大学等にICT（情報通信技術）教育講座を開設し、運営する仕事に携わる。そのノウハウを元に4年前にバングラデシュで1年前にはパキスタンで人材教育・派遣会社（<http://www.jobs-ict.com/>）を設立し、イスラマバードと、ダッカの事務所を拠点に忙しく飛びまわっている。

先ずはじめに、東北大震災で被災された皆様に心からお見舞い申しあげます。被災者の皆様に、そして日本全体にも大震災前の笑顔や元気がもどってくる日が一日も早く来ることをお祈りしています。



高垣さんと現地の女性たち

春に母が訪ねてきてくれました。口にはだきないものの、私の体調や治安の悪さなどをとても心配している様子でした。現に住めば都とまではいかず、時には怖い目にも遭います。ベシャワールの大学に研修の仕事で出向いた時、デモ隊が大騒ぎしているという情報が、私と現地人社員の乗った車に入りました。最近外国人が近くで殺されたとの説明もあり、車の窓よりも下に顔を隠すよう指示されました。大学に到着すると、いきなり男性職員に囲まれ「顔を覆って早く下りて」と合図され、部下と私は、小部屋に閉じ込められました。そこは、電気もつかず窓もない真っ暗な倉庫の様な所でした。以前、父が冗談交じりに「誘拐・拉致されるのだけは勘弁してくれ、身代金なんて払えないぞ」と言っていたことを思い出し、頭の中が真っ白になりました。部下の手前平静を装ったものの、なんとその時間が長く感じられたこと。

あとになって、私達の安全を確保するため、デモ隊や周囲の動きが静まるまで身を隠させられたと分かりました。緊迫感が去ると、疲れがドッと出ました。先日は、カラチで買い物中にそこからわずか200mくらいのところにあるモスクが爆破され、びっくり仰天。両国とも、政情不安続きですし、治安の悪さは相変わらずです。大地震や大洪水等自然災害に加え、私自身も、身の危険を感じること、不安・不満・不便に思うこと等多々ありますが、何事も前向きに慎重に対処していきたいと思っております。できるだけ速い時期に、会社を現地人の経営陣に引き継ぎたいと思い、今は自立性と永続性の観点から基礎固めを行っています。

今後ともパキスタンやバングラデシュからの手工芸品の調達のお手伝いをし、両国の現状などお届けできればと願っております。

マレーシア便り

マレーシア女性が見た日本人男性

今井 敏子



クアランブルの私の事務所は、東京で言えば新宿のようなところにあった。ちょっと裏通りに行けばローカル向けの中華、マレー、インドの各料理の屋台が集まったフードコートがあり、普段のお昼、日本人駐在員は中華の店に行くことになる。私も中国系の秘書のアニーと毎日決まったお店に通った。中国系の人たちは見た目には日本人と変わらない。ある日、私は秘書に聞いてみた。「どれが日本人かしらね？」すると彼女が教えてくれた。「あれが日本人だよ。半袖のシャツを着て、昼間からビールを飲んで、脚を開いて座ってる」確かに、マレーシア人のホワイトカラーはきちんと長袖のワイシャツを着てネクタイをしている。暑いのでビールを飲みたくなるが、マレーシア人は午後から仕事があるのでビールを飲んだりしない。「どうして脚を開いているのかしらね？」と聞くと、「緊張しないと開いたらいいんだよ」と散々な言われようである。

そのアニーが日本に来たことがある。電車に乗るとき、女性を突き飛ばして我先に良い席を取ろうとする日本の男性を見て、「日本人は女性をrespectしないの？」と驚いていた。respect=尊敬ではないし、と英英辞典を引いてみると、'treat with consideration'（思いやりをもって接する）などの意味があり、なるほど、と納得した。マレーシアで暮らして日本を外から見たおかげで見えてきたことがいくつかあるが、そのひとつが、日本の男性が如何にスボイルされているかである。



今井さん（左）とアニーさん

10数年前、西村会長のお説いでユニよこの広報部に入れて頂きました。当時、街頭募金をしたり、ユニフェムの活動を知つて頂けるよう心を込めてリーフレットを配つたりしたのを懐かしく思い出します。ユニよこの諸先輩の優れた知識、視点の高さ、広さ、それに行動力には本当に敬服し、えらいところに入ったものだと思ったものです。

親の介護の関係で暫くお休みを頂いていますが、地域では時間の許す範囲で生活支援をするNPOに加わり、主に配食部門を担当しています。約30人のスタッフでローテーションを組み、毎水曜日の夕食を120食作り、配達しています。初めて15年近くになりますが、ご利用のお年寄りは届くのを心待ちにして下さり、大変喜んで頂いています。

昨年の10月に父、今年の1月に夫と相次いで家族を亡くしました。気落ちする私に多くの方から慰めと励ましの言葉を頂き、皆様の支えを身にしみてありがとうございます。まだ全介助の母が居ますので自分は会費会員ですが、発送の準備とかショップの売り子とかは得意分野なので何時の日か私の出来ることでお役立ちしたいと思っています。



ショップボランティア募集
場所：UN Womenショップ
(男女共同参画センター横浜内)
時間：平日 10:30～14:30
または 12:30～16:30
交通費：実費支給
申し込み：事務局に希望の日時を
前もって電話・faxかメールで
ご連絡ください。

ショップ リニューアルオープン

これまでショップは、国内委員会の事務所の片隅を拝借し、なんとか販売を続けてきました。しかしながら狭い事務所は、時とともに商品であふれ、事務に支障をきたし始めました。こうした矢先、3月半ばに横浜市から願つてもない話が舞い込みました。それは、2月に撤退した館内のレストランの一角を、ユニフェムショップで借りないかというものです。役員会にかけると、不安はあるがやってみよう決まりました。賃料も4月から払い、やっとUN Women よこはまは自前の活動拠点ができました。

やると決めてからの、会員の行動はすばやいもので、あっという間に大掃除をすませ、ついでに引越しまで半日でやりとげました。当初オープンは連休明けと決めていましたが、このままにしておくのはもったいないということで、急遽4月11日仮オープンしました。これからはどこにも遠慮せず、楽しんで活動ができると思います。皆様の知恵と行動力をさらに結集し運営をしていきましょう。新たにショップ部会を立ちあげ、仕入れ、販売、経理など形を整えますので、人手もこれまで以上に必要です。お店に興味のあるかたは、積極的に手をあげて運営に参加してください。

(広報部会 西村洋子)

国内委員会ニュース

2010年度の拠出金は、地域等委員会をはじめ企業や団体、また個人の皆様からのご寄付で、過去最高の10,818,542円(128,539.98ドル)となりました。あつく御礼申し上げます。

この拠出金で支援するプロジェクトは以下の通りです。

◇アフガニスタン(20,946ドル)：女性の経済的安定性と権利：持続可能な経済的資産を築くチャンス

◇パキスタン(30,000ドル)：

CEDAWを超えて—パキスタンにおける女性の人権を実現するための国家および国際的取組の実施促進

◇ボスニア・ヘルツェゴビナ(12,000ドル)

ジェンダーに基づく暴力への認識向上と宗教間対話に果たす女性の役割

◇フィリピン(20,238ドル)：ミンダナオにおける女性の平和と安全保障：国連安保理決議1325号および同決議に基づくフィリピン国内行動計画の地域における実施支援

◇暴力撲滅基金(25,370.08ドル) ◇コア資金(19,985.9ドル)

事務局より

*Eメールアドレスが変わりました。

新アドレス unwomenyokohama@extra.ocn.ne.jp

*新入会員の方々です。

有吉 雅子 本田 均平

*ご寄付をありがとうございました。

青山 恵子 伊藤 千鶴子 山本 紀子

梅田 英子 宮坂 洋子 (敬称略)

UN Women よこはま 第1号

発行日 2011年5月1日

発行 UN Women よこはま
事務局 〒244-0816

横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内

TEL・FAX 045-869-6787

Eメール unwomenyokohama@extra.ocn.ne.jp

Webpage <http://www.unifemyokohama.org/>

UN Women よこはま広報部会